



キンバイザサ



カジカ類



荷担滝（赤目四十八滝）



イワタバコ



カワトンボ類



水道水の水質基準が一部改正されました!!



「水質基準に関する省令の一部を改正する省令（平成20年厚生労働省令第174号）」等が平成21年4月1日から施行されています。

改正内容は、以下のとおりです。

- ① 「1, 1-ジクロロエチレン」に係る水質基準を廃止する。
- ② 「シス-1, 2-ジクロロエチレン」に係る水質基準を「シス-1, 2-ジクロロエチレン及びトランス-1, 2-ジクロロエチレン」に変更する。
- ③ 「有機物（全有機炭素（TOC）の量）」に係る水質基準を 3 mg/L以下に強化する。

水道事業者等（専用水道等を含む）は、これら改正された水質基準項目等を定期的及び臨時に検査することが義務付けられています。

これら水質検査は、厚生労働大臣の登録を受けた登録水質検査機関で受ける必要があり、当事業団では、今回の水道法の改正を機に、専用水道事業者様はもとより、自己水源を有している事業者様を対象に、改正された基準項目（50項目検査）を含め、「水道法」、「建築物における衛生的環境の確保に関する法

律」等に記載されている飲料水等の分析項目を**お値打ち価格（平成21年8月末日まで）**にて検査させて頂いております。

詳細は、ホームページをご覧ください。

三重県環境保全事業団

検索

また、その他環境関連業務（大気、水質、騒音・振動、悪臭等）についても、お客様のご要望に沿った提案等を実施させていただきますので、何なりとお問い合わせ下さい。

審査工数が詳細に整理されました

品質マネジメントシステム（QMS）及び環境マネジメントシステム（EMS）の認証審査における審査工数^(※)は、財団法人日本適合性認定協会（JAB）から発行されている指針により決定され、共通のルールで運用されています。

このたびJABにおいて、審査工数に対する指針が見直され、平成21年4月10日付けで、『「マネジメントシステム認証機関に対する認定の基準」についての指針－QMS及びEMS審査の工数－』（JAB MS 305-2009）が発行され、平成21年5月1日から適用されることとなりました。

審査工数は、組織の従業員数等から区分され、設定されています。今回の見直しにより、従業員数の区分が細分化され、審査工数が詳細に整理され、より共通化が図られました。

平成21年5月1日以降、この指針に基づいた審査工数を適用することになりましたので、受審

組織の皆様のQMS及びEMSのすべての審査における審査工数を確認させていただきます。今回の指針の適用により、受審組織の皆様にご準備いただくことはありませんが、審査工数の変更の必要がある場合には個別の連絡又は案内により、十分な説明をさせていただきます。

審査工数の見直し内容については、国際規格審査登録センター（ISC）のホームページ（キーワード検索：国際規格審査登録センター）でもお知らせいたしますので、ご覧下さい。また、内容等でご不明な点等がありましたら、下記にお問い合わせ下さい。

(※) 審査工数

1日あたり8時間を基礎として計算された人・日で、審査に必要な時間をいいます。具体的に審査工数1とは、1人の審査員が1日（8時間）審査することをさします。

お問い合わせ先 国際規格審査登録センター（ISC） tel 059-245-7514 fax 059-245-7524



三田最終処分場の現状

三田最終処分場は、平成17年8月に供用を開始してから4年余りが経過しました。三重県内の企業や公共から発生した廃棄物の埋立処分を行っています。平成21年3月末現在で60.7万トンの廃棄物を埋立処分しており、これは総埋立計画量の80%に当たります。

埋立工法は、先ず護岸堤防で囲まれている海域に廃棄物投棄台船を搬入し、投棄台船での水中投棄により水面下の埋立地地盤が水深約2.5mの高さまで



埋立処分作業
(使用重機：バックホウ)

埋立てを行い、その後、ブルドーザーやバックホウ等の重機を使用して片押し工法で陸上部分の埋立てを行う方法で埋立処分してきました。

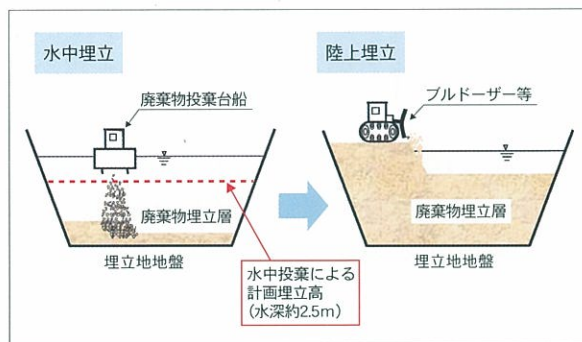
昨年8月には海域がすべて計画高さ（水深約2.5m）に達したことから投棄台船での埋立を終え、護岸堤防の外からクレーン船を使用して廃棄

物投棄台船を処分場外に搬出し、この4月には投棄台船への積み込み設備（ベルトコンベア）も撤去しました。

現在は、陸上埋立てを行っています。



廃棄物投棄台船



埋立工法

お問い合わせ先 廃棄物管理部 処分場管理課 tel 059-349-5016 fax 059-346-6500



生物多様性保全に向けた活動を始めます！

環境問題の古くて新しいテーマである、生物多様性の保全への関心が高まりつつあります。

生物多様性とは、さまざまな概念が複雑に絡み合っており、具体的なイメージがつかみづらいですが、今、特に注目されているのが、この地球上に分布している生物種のうち、絶滅に至る種の数の増加の速度が、過去に比べ近年増してきていることです。ある研究者の試算によればこの絶滅速度は過去の約1万倍に達するとされ、この主な要因が大規模な森林伐採等人为的な影響によるものとされています。生物種数の減少は、種の多様性の低下を意味し、これにより生態系の多様性の減少を招き、ひいては人間社会が生物界から受けている恩恵（食糧生産の基盤である遺伝資源、生活資材の供給、新薬等の開発のための資源など）の損失を引き起こすことが懸念されています。

2010年は、国連が定める「国際生物多様性年」で、この節目の年に、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が、お隣の愛知県名古屋市で10月に開催されます。



こうした状況の中、当事業団では、生物多様性保全に向けた活動を開始しました。

その詳細は検討中ですが、「**三重の豊かな自然を未来に伝える**」を基本コンセプトとして、次に示した内容を盛り込んだ活動を行っていきたいと考えています。

- **啓発活動**：生物多様性保全の必要性を広く知らしめる活動
- **人材育成**：生物多様性保全を支える人材を育てる活動
- **集える場の提供**：生物多様性に関心を持つ人が集える場を提供する活動
- **情報提供**：県内の自然環境に関する文献などの情報を収集・整理し、提供するための活動
- **他機関との連携**：博物館などが行う活動やその他の機関が行う生物多様性保全活動と協働して行う活動

具体的な活動が決まり次第、ホームページ

三重県環境保全事業団

検索

などでお知らせしますので、その節には皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

お問い合わせ先 調査部 環境調査課 フリーアクセス 0120-0592-02 tel 059-245-7509 fax 059-245-7519



平成21年5月
津市河芸町内で大矢職員撮影

万葉人の
愛した草木

その十八

たらちねの 母が園なる 桑すらに
願へば衣に 着すとふものを
(巻七の一三五七)

「母が自分の生業として育てている桑の木でさえも、心からお願ひすれば衣として着られるといひますのに。」という意味ですが、この歌はどうしてもかなえられぬ恋を嘆いたものです。

クワはもとともと中国原産で、古く養蚕とともに渡来したという説があります。

雌雄異株ですが、稀に同株の場合もあります。雌株には、初夏の頃、イチゴによく似た形の実がつき黒紫色に成熟します。子供の頃、学校の行きかえりや授業の合間に抜けだし、よく食べました。口のまわりや歯を紫色に染めたなつかしい思い出のある植物です。

葛山博次 著「万葉集の植物」より

● 事業団へのご意見・ご希望または「みえか」のご感想をお寄せ下さい。e-mail : mec@mec.or.jp